

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|--|--------|-----------------|
| 建物名称 | エコム新棟 新築工事 | 階数 | 地上2F |
| 建設地 | 静岡県浜松市浜北区平口5277-1,5277-2,5277-3,5278-3 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 市街化調整区域、法22条区域 | 平均居住人員 | 96 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 2,000 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 事務所,工場, | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2021年11月 予定 | 評価の実施日 | 2020年11月27日 |
| 敷地面積 | 8,056 m ² | 作成者 | 常盤工業株式会社 中村圭介 |
| 建築面積 | 1,759 m ² | 確認日 | 2020年11月27日 |
| 延床面積 | 2,707 m ² | 確認者 | 常盤工業株式会社 中村圭介 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---------------------|---|---|
| 総合 | 周辺環境との調和や労働環境向上のため周囲に5m幅の植栽帯を設けるほか、敷地内にも意匠を向上させるような植栽帯を設けている。建物の外壁には、ポリウレタンフォームを封入した金属サイディングを用い、外断熱とすることにより夏季の日射熱低減、冬季の断熱性を向上し、空調負荷を低減すると共に快適な労働環境となるようにしている。 | その他 開口部は、オフィスゾーンの北側に大型開口部を設け、安定した採光を得て快適な空間にするほか、照明器具利用時間を減らすことによる省エネ効果を期待している。 |
| Q1 室内環境 | 昼光率を高めに設定し、光・視環境に配慮している。また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮している。 | Q3 室外環境(敷地内) 視線を遮らない様な樹木の配置、防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。緑地を設けることにより良好な景観を形成している。 |
| LR1 エネルギー | 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。 | LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を84%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。適切な量の駐車場を確保し交通渋滞や路上駐車が発生しないように配慮している。 |
| Q2 サービス性能 | 天井高を高くし、自動販売機やリフレッシュスペースを確保するなど心理性・快適性に配慮している。内外装共用防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。 | |
| LR2 資源・マテリアル | 自動水栓などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、フリーアクセスフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。 | |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

| | | | | | | |
|---------|------------|-----|-----|--------|----|-----|
| 1. 建物概要 | | | | | | |
| 建物名称 | エコム新棟 新築工事 | BEE | 1.1 | BEEランク | B+ | ★★★ |

| 2. 重点項目への取組み度 | | | | | | |
|--|---------------------|----|-------|----------------|-----------------|-------------------|
| 重点項目 | 得点 [※] /満点 | | 取組み度 | | 評価 | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.5 | /5 | | | ふつつ | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 3.0 | /5 | | | ふつつ | |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 3.4 | /5 | | | ふつつ | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 2.9 | /5 | | | がんばろう | |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | | 評価 凡例 | よい 4 点以上 | ふつつ 3 点以上 | がんばろう 3 点未満 |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要 | | 内訳対応項目 | | |
|---|---------------------|---------------|-----|--|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。 | | | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | | 得点 | 3.5 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ④外壁: 金属断熱サイディング(塗装): 30年 ④天井: RW吸音板: 30年、壁: ビニルクロス: 15年、床: タイルカーペット: 15年 ④給水: 塩ビ: B、排水: 塩ビ: B、冷媒: 鋼: C、Eは不使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦ペアガラスによる高断熱化 ⑨LED照明の採用 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪泡沫水栓、自動水栓、節水型便器の採用 ⑫普通コンクリート・骨材・混和材料・高炉スラグの採用 ⑬躯体+LGS+仕上、OAフロアの採用 ⑬ノンフロン断熱材の採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮省エネルギー対策 | Q-1 2 2.1 2.1.2 ① | 外皮性能 | | |
| | Q-1 3 3.1 3.1.3 ② | 昼光利用設備 | | |
| | 3.2 3.2.1 ③ | 昼光制御 | | |
| | Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ | 躯体材料の耐用年数 | | |
| | 2.2.2 ④ | 外壁仕上げ材の補修必要間隔 | | |
| 2.2.3 ④ | 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 | | | |
| 2.2.4 ④ | 空調換気ダクトの更新必要間隔 | | | |
| 2.2.5 ④ | 空調・給排水配管の更新必要間隔 | | | |
| 2.2.6 ④ | 主要設備機器の更新必要間隔 | | | |
| Q-3 1 ⑤ | 生物環境の保全と創出 | | | |
| 3 3.2 ⑥ | 敷地内温熱環境の向上 | | | |
| LR-1 1 ⑦ | 建物外皮の熱負荷抑制 | | | |
| 2 ⑧ | 自然エネルギー利用 | | | |
| 3 ⑨ | 設備システムの高効率化 | | | |
| 4 4.1 ⑩ | モニタリング | | | |
| 4.2 ⑩ | 運用管理体制 | | | |
| LR-2 1 1.1 ⑪ | 節水 | | | |
| 1.2 1.2.1 ⑪ | 雨水利用システム導入の有無 | | | |
| 1.2.2 ⑪ | 雑排水等利用システム導入の有無 | | | |
| 2 2.1 1.2 ⑫ | 材料使用量の削減 | | | |
| 2.1.2 ⑫ | 既存建築躯体等の継続使用 | | | |
| 2.1.3 ⑫ | 躯体材料におけるリサイクル材の使用 | | | |
| 2.1.4 ⑫ | 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 | | | |
| 2.1.5 ⑫ | 持続可能な森林から産出された木材 | | | |
| 2.1.6 ⑫ | 部材の再利用可能性向上への取組み | | | |
| 3 3.1 ⑬ | 有害物質を含まない材料の使用 | | | |
| 3.2 3.2.1 ⑬ | 消火剤 | | | |
| 3.2.2 ⑬ | 断熱材 | | | |
| 3.2.3 ⑬ | 冷媒 | | | |
| LR-3 1 ⑭ | 地球温暖化への配慮 | | | |
| 2 2.2 ⑮ | 温熱環境悪化の改善 | | | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | | 得点 | 3.0 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) | Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ | 耐震性 | | |
| | 2.4 2.1.2 ⑯ | 免震・制振性能 | | |
| | 2.4.1 ⑰ | 空調・換気設備 | | |
| | 2.4.2 ⑰ | 給排水・衛生設備 | | |
| | 2.4.3 ⑰ | 電気設備 | | |
| | 2.4.4 ⑰ | 機械・配管支持方法 | | |
| | 2.4.5 ⑰ | 通信・情報設備 | | |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | | 得点 | 3.4 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲階高 事務所(2F): 4.6m、工場(1F): 4.9m ⑲壁長さ比率 事務所(2F): 0.16、工場(1F): 0.13 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) | Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ | ユニバーサルデザイン計画 | | |
| | 3 3.1 3.1.1 ⑲ | 階高のゆとり | | |
| | 3.1.2 ⑲ | 空間の形状・自由さ | | |
| Q-3 3 3.1 ㉑ | 地域性への配慮、快適性の向上 | | | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | | 得点 | 2.9 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) | Q-3 1 ⑳ | 生物環境の保全と創出 | | |
| | 2 ㉒ | まちなみ景観への配慮 | | |
| | 3 3.2 ㉓ | 敷地内温熱環境の向上 | | |
| ■敷地外環境対策 (㉔温熱環境悪化の改善) | LR-3 2 2.2 ㉔ | 温熱環境悪化の改善 | | |